News ニュース

パラリンピック，共同オフィス新設
25 競技団体が利用

2020 年に開かれる東京パラリンピックの成功や障害者スポーツの振興を目的に創設された，日本財団パラリンピックサポートセンター（パラサポ，山脇康会長）は 11 月 10 日，東京都港区の日本財団ビルに 25 競技団体などが共同で入るオフィスを新設し，発表会を開いた．

パラリンピック競技団体の多くは体制が弱く，専用の事務所や有給の職員を持てないのが現状．パラサポはオフィスの無償提供のほか，事務の一部負担，活動費用の助成もする．

発表会に参加した，車いすテニスの国枝慎吾選手は「パラリンピックの成功には選手の活躍が欠かせない．競技団体の基盤を固め，20 年までに優秀な選手を一人でも多く出すことが重要」と話した．

パラサポを応援する SMAP も駆け付け，中居正広さんは「選手のみなさんがメーン．僕たちはどんな支え方ができるか，みなさんと話し合って準備し，サポートしていきたい」と話した．

（福祉新聞・第 2739 号　2015 年 11 月 16 日）

お知らせ

日本精神保健福祉政策学会第 25 回学術大会

テーマ：「今後の精神科医療を考える」
大会長：五十嵐良雄（メディカルケア虎ノ門院長，当学会理事）
大会運営委員会：石山淳一，五十嵐良雄，伊勢田堯，片倉直子，加藤久雄，小峰和茂，鈴木二郎，竹島正，野村忠良，藤井克徳，星野　茂，松澤和正
日　時：2016 年 2 月 6 日（土）10：30〜16：30
会　場：東京医科歯科大歯学部講堂
参加費：3,000 円，当事者・家族・学生：1,000 円
＊日本精神神経学会専門医制度ポイント取得学会：専門医認定証をご持参ください．
開催趣旨：日本の少子高齢化や精神疾患の軽症化などを背景として，精神科を取り巻く医療や福祉の環境は急激に変化している．その結果，精神科病院では規模のスリム化と病棟の機能分化は避けて通れない状況である．経営的判断として病院を解体し，複数の多機能型精神科診療所へと生まれ変わった精神科病院もあり，成果を上げている．

精神科デイケアや訪問看護，さらには就労支援事業所や障害者就業・生活支援センターなどを併設した多機能型診療所は，精神科診療所の発展形である．入院中心の治療から地域ケアへのパラダイムシフトに伴い，精神科診療所はこれまでの診療中心の一人医師の診療所と多機能型診療所へと 2 極化していくと思われる．しかしながら，利用者が機能分化した医療サービスを上手に受けるためには，医療機関の間での連携が重要である．そして，連携を促進させるためには診療報酬上での措置は欠かせない．

障害者福祉施策は，形式的には 3 障害の障壁が取り除かれた．リカバリー理論の追い風もあり，就労支援事業所が全国で活発に活動を始め，作業所時代のイメージとは大きく異なる現実もある．上記の視点で以下のシンポジストから発表をいただき，今後の日本の精神科医療について論議を深めたい．

シンポジウム：「今後の精神科医療を考える」
司会：藤井克徳（きょうされん専務理事，当学会副理事長）
シンポジスト 1「日本の精神科医療の将来像：総論（仮題）」福田祐典（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所）
シンポジスト 2「多機能垂直型診療所の現状と将来（仮題）」窪田　彰（多機能垂直型診療所研究会，クボタクリニック院長）
シンポジスト 3「精神科病院を閉鎖し診療所での医療の継続を実現することからの学び（仮題）」佐々木一（医療法人爽風会理事長，あしたの風クリニック）
シンポジスト 4「障害者福祉の立場から精神科医療に望むこと（仮題）」増田一世（やどかりの里）
参加申し込み・問い合わせ先：日本精神保健福祉政策学会　事務局（担当：渡部）
〒 169-0074 東京都新宿区北新宿 4-8-16
北新宿君嶋ビル　9 階
Tel：03-5937-2444/Fax：03-5937-4888

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2016

2026/09/13 19:44:34